

5月福井県の取立山へ

5月21～22日 健生会友の会山歩きクラブの「役員登山」が行なわれた。その山行の趣旨の中に「退任役員の慰労」が含まれており、私も参加させてもらった。

越前大野城を遠望

1日目は雨もよいだったため、越前大野城(和田山竹田城、備前松山城と共に「天空の城」として名高い)を遠望できる、戌山(いぬやま)城址に登った。大野市鉄掛からの「天空の小径」を辿ると、シライトソウ、チゴユリ、モチツツジなどが花を咲かせていたが、カタクリの実が沢山あり、早春のころの状況をしのばせた。

平泉寺跡の巨杉・苔・参道

引き続いて訪ねた勝山市の平泉寺白山神社は白山信仰の拠点の一つだが、明治初期までは霊応山平泉寺という巨大寺院。その面影を残した参道や堂宇、巨杉、見事な苔のひろがりなど見ごたえがあった。



↑取立山のムラサキヤシオ(ツツジ科)

快晴のもと、取立山から白山を仰ぐ



↑ベニバナミヤマカタバミ

↓イワナシ(ツツジ科)

2日目は一転して快晴。六呂師高原温泉から国道157号線を北上して勝山市東山憩いの森から取立山登山口まで林道を走る。車で運んでもらうことの有難い事。輝きながらも目に優しい若葉・新緑を楽しみながら大滝へと向かう。Yさんが足元のピンクの花を見つけた。ベニバナミヤマカタバミだ。花に関心をもつ眼のいい人と同行すると、思わぬ余得に預かれるのだ。

こつぶり山からも白山が

大滝を見て、急登を登り、灌木の間を抜けて間もなくこつぶり山に到着。眼前に広がる白山連峰に思わず歓声が上がる。

多くの残雪を纏ったその山容は見る者を魅了する。古代より霊山として崇められ、北陸地方を中心に白山信仰が人々の心をとらえたのも、領ける気が

石川県側にミズバショウの群生地

さらに進むと、ミズバショウの群生地に出た。一面にミズバショウが白い苞(ほう)を見せており、周囲をめぐる遊歩道にはショウジョウバカマ、ミドリユキザサ、イワナシなどが咲いている。遠くからジュウイチ(ホトトギスの仲間の托卵鳥)の独特の啼き声が届いてきた。

ここは雪解けが遅れたのだろうか。春の花をもまじえた初夏の風情だ。

↓取立山の大滝





↑ミズバショウの群生

取立山への登りには、コブシ、シデコブシ、ムラサキヤシオなどが目を楽しませてくれる。

取立山山頂も好展望地

取立山山頂(1307m)からの眺望も素晴らしかった。鮮やかな新緑を従えて、残雪の白山が聳え立ち、石川、福井両県の山々がそれぞれ特徴ある姿で立ち並んでいる。荒島岳、経ヶ岳など懐かしい。

頂上から出発点の登山口まで一気に下った。

途中でアオダモ(コバノトネリコ)が涼しげな花を咲かせていた。



↑こつぶり山からの白山

健康まつりに4000人

5月26日(日)大和高田市 JR 高田駅東広場と奈良県産業会館とを会場に、健生会友の会の第32回健康まつりが開かれた。

文字通り健康をテーマにした一大イベント。健康チェック、体力測定、医療相談会などのほか、沢山の模擬店、こどもの広場、友の会各サークルの出し物、献血など、楽しく、健康増進のための企画が目白押し。

来年も5月に行われます。来年もどうぞよろしく。

